

名寄市保健医療福祉推進協議会 第9回地域福祉部会

議事録

日 時：平成28年7月20日（水）18時30分～20時

場 所：名寄市役所 4F 大会議室

・委嘱状の交付

1 開 会（地域福祉部会 部会長）

2 挨 拶（地域福祉部会 部会長）

3 議 事

報告第1号 アンケート結果について

協議第1号 アンケート結果の考察

→ 事務局より、別紙資料について説明を行った。

（委員 A）事務局から説明のありましたアンケート結果について、何かご質問は、ございますか？

（委員 B）資料1ページの「調査期間」は、どのくらいだったのでしょうか？

（事務局）4月末に郵送し、5月15日を提出締切日としましたので、約2週間としました。

（委員 C）資料1ページの「回収率」ですが、他の町の回収率は、どのくらいなののでしょうか？

（事務局）今回のアンケートの回収率は、39.9%でした。これは、他の町のアンケート調査の回収率とだいたい同じくらいだと思います。

本市については、前回の地域福祉計画のアンケートの回収率が、約50%だったので、担当の私としては、回収率がかなり低くなったように感じていました。

（委員 A）資料6ページの「問5 名寄に居住して延べ何年になりますか」と、資料8ページの「問7 前門のお住まいの居住年数を教えてください」は、似ている質問だと思いますが、設問を作りあたり、どのような意図だったのでしょうか？

- (事務局) 似ている質問なのですが、「延べ年数」も知りたかったので、このような設問になりました。
- (委員 A) 名寄市内で引っ越し場合もありますので、このような設問にしたという経緯があります。
- (委員 A) 資料10ページのところですが、「集合住宅にお住まいの方々は、近所付き合いが低い」という傾向が出ています。さらに、若い人に多いという傾向も出ています。このことに対して、何か施策が必要なのかもかもしれませんね。
- (委員 D) 資料11ページの表を見ても、「町内会に加入していない人」についても、近所付き合いの程度が「あいさつをする程度」の方が結構いますので、(まったく近所付き合いがないわけではないので)もしかしたら、アプローチも可能ではないでしょうか？
- (委員 A) やはり集合住宅の場合は、町内会の加入の勧誘が少ないのでしょうかね。
- (委員 E) 以前は、お葬式を町内会でしていたので、町内の人同士でコミュニケーションができていましたが、時代の流れだから仕方がないのかもしれませんが、今は、そういう状況がなくなってしまっています。
- (委員 F) 資料14ページのところですが、65才以上の方が地域活動に参加していない状況が、予想以上に多かったのではないかと考えています。また、活動に関わりたいと思っていない高齢者の方も多かったと考えています。
- 若い人を呼び込むようなことも重要だと思いますが、高齢者へのアプローチも大事だと思います。そうしないとバランスが悪くなってしまおうと思います。
- (委員 A) 高齢者へのアプローチをしなくてはならないという話は、そのとおりだと思います。
- 昔は、生まれてから死ぬまで町内会にお世話になっていましたが、今はそういう状況ではなくなっていますね。高齢者の方で、町内会活動を十分やれると思う方がいるのですが、「パークゴルフなどの活動で、町内会活動をやっている暇がない」「先が短いので…」とおっしゃっている状況もあります。
- (委員 B) 資料24ページのところですが、「問14 あなたは普段の生活に関する情報をどこから入手していますか」では、「広報」よりも「新聞」の方が高いんですね…。私は、広報の方が高いのではないかと考えていました。
- (委員 A) 市役所や社協としては、この「広報」の割合(61.1%)は、高いと思いますか？
- (事務局) 市の担当者の私としては、もう少し高いと思っていたので、この結果は、「ちょっと低い」と感じました。

- (事務局) 社協の担当者の私としては、思っていたより「高い」と感じました。
- (委員 G) 私は、順当な数字だと思いました。「新聞」については、毎日発行されますので、目に触れる機会が多いと思いますし、新聞を読むのが習慣にもなっていると思います。「広報」については、月 1 回の発行ですが、より詳しい情報が載っていると思います。
- (委員 E) 私は、いろいろな情報を「口コミ」で伝えるようにしています。口コミで伝わる良さもあると思います。
- (委員 A) 私は、名寄新聞を読む際に、「行事欄」と「お悔み欄」を全部見るようにしています。
「広報」については、最後のページにある「カレンダー」に、もっと行事の情報を書くようにしたらよいと思います。
- (委員 H) 私は、「広報」を情報の入手先にしている割合は、高いと思います。以前、本州に住んでいた時の話ですが、広報横浜は、5割を切っていました。今後については、若い人の「広報を読む率」をあげるようにすればいいのだと思います。
「町内会」については、「広報を配ってくれなかった…」と言っていた人もいます。時代に合わせた町内活動を考えていくことも必要なのかもしれませんね。
- (委員 A) そうですね。啓蒙活動が必要なのかもしれませんね。
- (委員 I) 若い人が入っている集合住宅では、大家さんが、町内会費を家賃に含めている場合がありますので、今回の調査結果に、少しギャップが出てくるかもしれませんね。
- (委員 A) このあと、素案づくりをしていくこととなりますが、ここの意見で、素案づくりに活かすことができるものがあれば、盛り込むことを検討してみてください。

協議第 2 号 素案の検討（「基本目標」について）

→ 事務局より、別紙資料について説明を行った。

- (委員 A) 何かご意見はありますか？
- (委員 G) 今、話し合っている地域福祉計画は、市民を対象にした計画ですね。旅行者など、一時的に外から名寄に来る人へのホスピタリティについて関心を持っています。
市外からの大会参加者へのホスピタリティ的な施策を入れるというのは、難しいかもしれませんが、そういう気持ちを計画に盛り込めればと思っています。

(委員 A) このあと、この基本目標をもとにして、次回の部会までに「素案」を作成するとのことでしたので、どうぞよろしくをお願いします。

素案の中身の検討をしていく中で、基本目標が少し動くかもしれませんが、そういう押さえでもいいんですよね？

(事務局) そうですね。素案の議論をしていく中で、今日提示させてもらった基本目標の文言が、少し変わる可能性はあると思います。そういう押さえでよいと思っています。

4 その他

5 閉 会 (地域福祉部会 笹原部会長)